

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400042		
法人名	株式会社ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 水垂の里	1Fユニット	
所在地	掛川市水垂の里126-1		
自己評価作成日	平成31年1月8日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2297400042-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方、大人も子供も交えて利用者様が楽しめる様に常に取り組み。今年で三年目、毎年同地域の小学生との交流会を開催しています。また、地域交流として社会福祉協議会主催の行事に「グループホーム水垂の里」として参加し、当施設のアピールを行っています。又昨年より掛川市内各グループホームにも声を掛け「ホーム会」を立ち上げ合同で「ホーム会」としてふれあい広場に参加しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族との信頼関係構築に真摯に向き合っている事業所です。日常の様子や行事を写真に収めた『水垂たより』を毎月発行し、レイアウトや背景も凝って「見易さ」に配慮のうえ次回行事の告知を以て家族の参加も募っています。さらに居室担当の職員がコメントを添えた利用者本人の写真をB5の厚紙に貼りつけて、こちらも家族に届けています。予め表紙を送ってあるため、紐で結んで揃えればオリジナルアルバムが完成する仕組みとなり、職員の気がきたアイデアに家族も飲んでいきます。土曜の午後開催の運営推進会議の後には引き続き家族会を開き、化粧品会社に依頼してメイク教室や師範を招いてのお茶会などで親睦を深めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、理念を理解し実践出来る様に努めている。	毎年1月のユニット会議は、年頭とあって管理者から理念について改めて確認しています。また理念を憶えたらいいというものでもないため、「利用者が自分の家族だとしたらどうするか」を考えるように促し、具体的に行動できるような問いかけを常々しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方の理解の元、良好な関係を保っている。	小学生の福祉体験訪問は恒例となり、本年も4クラスが日替わりで来所、総計約120名の生徒が利用者とはけん玉やトランプに興じ、親しんでいます。訪問の感想文を綴った冊子で思い出語りもでき、また地域の祭りでは「ぼくだよ、覚えてる？」と声をかけてくれる児童もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や同地域の小学生を招いたり社会福祉協議会の行事企画に参加してアピールに活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催している運営推進会議に参加して下さった家族様の意見を聞き、業務に活かしている。	運営推進会議は地区区長、掛川市の主幹兼係長とともに家族の参加も得て、隔月開催できています。半年に1度は会議終了後に、事業所行事や日常の様子をスライドショーで鑑賞する場を設け、事業所の取組みをより具体的に理解してもらえるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長、マネージャーが市の連絡会に出席し、共有している。	市内7事業所がグループホーム会を立ち上げ、掛川市社会福祉協議会のイベントでも共同ブースをだしています。管理者も幹事の一人として開催中は口腔体操、足浴体験、家族への介護相談を担当しており、地域に大きなPRが出来た取組みとして昇華しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、各フロアの入り口の施錠はしていない。夜間は防犯上施錠対応をしている。	毎年、県の身体拘束廃止フォーラムには交替で参加のうえ、ユニット会議で伝達講習することで、学びの共有を図っています。また本件は法人研修にも組込まれており、訪問時にも外が気になる利用者にも職員が優しいトーンで用事を依頼して焦点を動かす姿を垣間見ました。	本年の法改正に係る内容にやや不足と思われる点があるため、年度末に向けて整備していくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が順に「身体拘束フォーラム」に参加、参加職員による伝達報告にて、他の職員も理解できる様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しての学びの場を設け、職員全員が個々の必要性を把握し共通の言葉で支援できる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長やケアマネジャーが中心となって十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度、家族会を開催、また面会時や電話対応の中で家族様の要望や意見を聞き日々の業務に繋げている。	防災訓練の場で、「どうやって安否確認をしたら良いのか」との家族意見があったことから、管理者が実際に災害ダイヤル『171』を試行してみるなど、大抵運営推進会議後の家族会を通じて、意見の収集がおこなわれています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、ユニット会議を開催。日頃から全スタッフが意見を言いやすい環境作りに努めている。	ユニット会議は毎月ありますが、2つのユニットが集まる場は今のところありません。意見が出にくい人には管理者がかみ砕いて質問するようしたり、また会議以外の普段の場面で話を聴くよう努めており、意見から感染症対策のペーパータオルが導入されたりもしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者への待遇の見直し。勤務態度等を評価し、賞与へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修だけでなく、社外研修への呼びかけ、勤務内での参加が可能となる様に配慮している。新人教育にも日々の業務中で教育できるように力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同GHのホーム長と「GH会」を設立し、常に情報交換をしたりし、お互い刺激合うように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で関わりながら傾聴に努め安心して頂くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会など来られた際、普段の様子を伝えながら家族様からの想いを聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会など来られた際、普段の様子を伝えながら家族様からの想いを聞き日々の生活の中で声かけをし動いて頂くようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関わる際、利用者様の視線に腰を低くし表情を見ながら無理の無いように会話などをして職員との関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や買い物など無理のない範囲でお願いできることはお任せし、面会時は自室で家族様との時間を過ごして頂くようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設として無くすことはしていない。利用者様の希望に出来る限り添えるように努めています。	縫い物が得意な利用者は雑巾を縫ったり、ボタンつけを今でもおこなっているも、安全配慮から職員が隣りにつくようにしています。乳酸菌飲料を愛飲したり、馴染みの美容院へ家族に連れられて通う人、また友人が自転車で2ヶ月おきに来訪くださる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様、一人一人の性格を把握し、食席や昼間過ごす時の場所にも気を付け、時には職員が間に入り話題提供し、その時を盛り上げるように常にアンテナを高く関わられるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話、訪問、相談を受け入れ、関係を断ち切らない様に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とのコミュニケーションを大切にし、必ず本人の思いや希望を尋ねたり選択しを与えるなどして、ご本人様本位のケアが提供出来る様に努めています。	入居の折には「生活歴」シートを家族に作成してもらい、想いを汲み取るツールとして活用しています。またお茶の師範を招いたとき、あまりに手練れていたで尋ねたところ、経験者だったことが判ったという例もあり、職員を「何でもやってみよう～」という気持ちにさせています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聴き取りの際、生活歴、サービスの利用状況等、家族様や在宅時の担当ケアマネより情報を集め、入居後も随時連絡をとり、情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の聴き取りを基に入居後も変わらず過ごして頂く為に信頼関係の構築に図り、ご本人様の意向を確認しながら今出来る事が何なのか探るように努めています。		
26	(10)	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレスを行い、利用者様の状態に耳を傾けそれに対して、スタッフ同士意見を出し合い個々に応じた介護計画書を作成しています。(介護計画書は月3ヶ月毎更新しています。)	サービス内容は具体的に細かく記載され、『留意点』の欄には、「魚はとろみ館を掛けて提供する」「起床後はテレビへの反応が良く、発語も多い」と、1人の利用者をあらゆる面から観察し、介護計画書に表記していることが確認され、本件への技量が高いことが伝わります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、りょうしゃ様の様子、ケアについて介護記録や、申し送りノートに記録し、大切な事は口頭で伝える様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のその時々状態に応じて臨機応変に対応する様に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加、運営推進会議時にそれぞれの行政職員から意見を聞き、意見交換に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様、主治医と情報を共有し、利用者様に合った医療が受けられるように努めています。	利用者17名全員が在宅の頃からのかかりつけ医を継続しています。なかには往診くださる医師もいますが、受診は家族にお願いしています。家族にも事情があり、半数近くは職員が代行するのが現状です。また「職員も同行して欲しい」という家族もいて、要望に応じています。	通院介助の有料や物品のリースはここ数年の懸案として外部評価でも内々で提言してきており、今実地指導でも指摘があったとのことですので、事業所の主体的な早期解決を期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週木曜日に訪問看護師に来て頂き、健康チェック、報告、相談、処置を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を提出。随時病院に訪問し、担当医師や看護師との話合いの場を設けるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りの指針を説明。また、蘇生処置の意向確認も行っています。状態が変化してきた際には、早い時期に施設長・施設ケアマネ・看護師にてご本人様、家族様の気持ちを確認。ケアへとつなげています。	ここ2年で2名の看取りをおこなっています。取組むときは職員間でベクトルを合わせるとともに、役職者が現場に入り、職員負担を軽減させています。常にも週1回来所する訪問看護師が医療的行為を担い、職員もできることを真摯におこなえた結果、意識の高まりに結ばれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成したり、定期的に救命講習に参加を促し、緊急対応が迅速に行えるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度防災訓練を実施、年に一度は地域の防災訓練に行ける利用者様のみ参加し、地域の方達との協力体制に繋がられるように心掛けています。	年2回の法定訓練の内、1回は消防署の立ち合いを求め、具体的な指導を得ています。近年台風で水道が止まったり、大停電もありましたが、これまでの備蓄整備が生きて、混乱もなく無事乗り越えています。また地域の訓練には車いすの利用者も参加することができました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を把握しながら理解する様に努め、その時々に合わせて職員同士の声掛けにも注意しながら対応している。	個人情報に係る事柄については家族と同意書を交わしています。また接遇の研修は年間研修にも位置付けられ、利用者の行動を制するのではなく寄り添った言葉やアプローチができるよう指導しています。特に気になる職員には外部研修で研鑽してもらうよう計らっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりを大切に、思いや希望を聞けるように、又、出来るだけ応えられるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のリズムを大切に、その方に合う生活ができるように支援する様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服だけでなく、時計、小物等身に付けて来られた物等持参して頂きその日の服選びもご自分で頂くように声かけをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態に合わせて食事形態を取っています。	食事は業者から届いた食材を職員が調理しています。食前には全員にメニュー紹介をした後、配膳時にもう一度、利用者一人ひとりにメニューを紹介しながら、皿を置く姿を視認しました。月1回出前寿司をとったり、おやつも2~3ヶ月に1度は手作りや調理レクとして楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量を把握し体重の変動、半年に一度行っている栄養スクリーニングの数値を見ながらその時の状態に合わせて支援させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は毎食後に実施。毎月歯科医の往診にて異常の早期発見に努め、歯科衛生士による口腔ケアの指導も受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を調べ、間が空く場合は職員で声掛けをトイレへ誘導させて頂くように、自立に向けて支援をさせて頂いています。	午前中に2回(9時、11時)飲水、11時は体操をした後に提供、3食の前にも飲水することにしており、合計8回は水分摂取の機会があります。むくみがあれば回数を減らし、本人の意向に反することもしませんが、「なるべく」とお願いし、スムーズな排泄ひいては健康管理につなげています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カスピ海ヨーグルトを職員で作りにくい方に提供。水分量や運動量等日々の生活の中で出来ることを行い、同時に医師への指示を貰うようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間帯は決まっているが、利用者様の体調状態に合わせて意向を確認して行っています。	週2回の入浴と定めてはいても、「入りたい」希望にはできる限り応えています。変わり湯は異食が気がかりでおこなわず、入浴剤も好き嫌いがあるので本人の意向でとしています。湯は一人ひとり入れ替えているので、浴剤は希望があれば好みのものが入ることができます。	入浴は職員と1対1となれ、本人の居室以外で空間を占有できる場所でもあるため、楽しい時間となるよう更に工夫があることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体力に合わせて、日中に臥床時間を設けている方や、毎日夕方足浴を行い安眠して頂ける様に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様全員の内服薬の把握は完全には出来ていないが薬の様子が分かるような位置に置いてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、得意なこと、興味のある事を聞きとり、今何が出来るのかを考え、楽しめるように工夫をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り希望に添えられるように心掛け出来ない時は、利用者様が他でも安心できるような物を見つけ関わるようにしています。	天気が良ければ事業所の周りを歩いて、風に当たっています。初詣、桜の花見、紅葉狩りを年間の外出に位置付け、買い物など小さなドライブにも出かけていますが、総じて室内活動が増えています。ただし、家族の協力がある人は、墓参りなど個人的な外出ができています。	大きな外出を繰り返すのは無理があるようなので、誕生月の個別化外出などが継続されていくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、ご家族様より預かったお金で買い物をされたり、施設立て替えて買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された場合は、事前に家族様に確認を取り家族様の負担にならない様に掛けて頂いたり月一度家族様へ一ヶ月の様子を担当職員が写真を近況報告しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心掛け、季節に合わせて掲示物を飾るようにしています。	日当たりの良い窓際にソファを配置して、利用者がリラックスできる環境をつくり、壁には「思い出がいっぱい」とキャプションがつけられた半年分の写真がたくさん貼られていて、回想にも叶っています。加湿器も、ドアノブなどの掃除にも除菌水を使う等、感染症対策にも気遣っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係を把握し、食事席やソファの座る位置に配慮する様に心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家で使用していた馴染みのベットや布団、チェアや、タンス、机等持参して頂き、自分の部屋だと分かるようにネームプレートや飾り物にも工夫する様にしています。	伴侶の遺影に日本酒(ワンカップ)を供えている居室、電気毛布を遣う人、ベッドサイドに整容に必要なものを置いて快適を追求する様子が覗える部屋、家族が面会で冷えたドリンクを飲むために置かれたミニ冷蔵庫等、一人ひとりの趣が伝わる居室ばかりです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなど場所が分かりやすい様に張り紙をしたり、排泄時声掛けをし残った機能を使って自立した排泄が行える様に工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400042		
法人名	株式会社ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 水垂の里	2Fユニット	
所在地	掛川市水垂の里126-1		
自己評価作成日	平成31年1月8日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2297400042-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方、大人も子供も交えて利用者様が楽しめる様に常に取り組み。今年で三年目、毎年同地域の小学生との交流会を開催しています。また、地域交流として社会福祉協議会主催の行事に「グループホーム水垂の里」として参加し、当施設のアピールを行っています。又昨年より掛川市内各グループホームにも声を掛け「ホーム会」を立ち上げ合同で「ホーム会」としてふれあい広場に参加しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族との信頼関係構築に真摯に向き合っている事業所です。日常の様子や行事を写真に収めた『水垂たより』を毎月発行し、レイアウトや背景も凝って「見易さ」に配慮のうえ次回行事の告知を以て家族の参加も募っています。さらに居室担当の職員がコメントを添えた利用者本人の写真をB5の厚紙に貼りつけて、こちらも家族に届けています。予め表紙を送ってあるため、紐で結んで揃えればオリジナルアルバムが完成する仕組みとなり、職員の気がきたアイデアに家族も飲んでいきます。土曜の午後開催の運営推進会議の後には引き続き家族会を開き、化粧品会社に依頼してメイク教室や師範を招いてのお茶会などで親睦を深めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、理念を理解し実践出来る様に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の理解の元、良好な関係を保てている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や同地域の小学生を招いたり社会福祉協議会の行事企画に参加してアピールに活かしてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催している運営推進会議に参加して下さった家族様の意見を聞き、業務に活かしてる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長、マネージャーが市の連絡会に出席し、共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関、各フロアの入り口の施錠はしていない。夜間は防犯上施錠対応をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が順に「身体拘束フォーラム」に参加、参加職員による伝達報告にて、他の職員も理解できる様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しての学びの場を設け、職員全員が個々の必要性を把握し共通の言葉で支援できる様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長やケアマネジャーが中心となって十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度、家族会を開催、また面会時や電話対応の中で家族様の要望や意見を聞き日々の業務に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、ユニット会議を開催。日頃から全スタッフが意見を言いやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者への待遇の見直し。勤務態度等を評価し、賞与へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修だけでなく、社外研修への呼びかけ、勤務内での参加が可能となる様に配慮している。新人教育にも日々の業務中で教育できるように力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同GHのホーム長と「GH会」を設立し、常に情報交換をしたりし、お互い刺激合うように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多く接する様にし、色々な作業を一緒にを行い、本人の出来る事を見つける。一緒に作業する事で関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来て下さった時、月に一回の手紙で近況報告をし、ご家族様からの話も聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・出来る作業は一緒に行う。 出来たことに”有難う”の言葉を伝え関係作りに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い出来る事を行い支え合って頂けるような関わりを提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会などの行事で使うプレゼントを依頼。離れているからこそ思い浮かべられる思いをプレゼントに託して頂き面会に繋げてもらう。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設として無くすことはしていない。利用者様の希望に出来る限り添えるように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ソファーやテーブル席に座る際、利用者様のその時の様子を見て隣に座る利用者様を考える。 ・利用者様と利用者様の間に入り話題提供を行う		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話、訪問、相談等を受け入れ、関係を断ち切らない様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに寄り添ったケアをする。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居当初に聴き取った生活歴を確認するよう、新職員に伝える。家族様から直接聞き取った情報も加えて関わらせて頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の体力、体調の様子で休む時間を設ける。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者がモニタリング。カンファレンスはユニット会議で行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に残し、変わりが合った所、重要な事は申し送りの紙に記入、送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体のケアはあるが、その日、その時の様子で職員で話し合ったり、その場で対応し申し送りをしたりしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の行事は、体力や精神面を考え参加出来る方は参加して頂いています。また、施設の祭りにも案内を出して来れる方には来て頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族受診では、日々の様子や相談したい事を記入し、家族様に口頭でも伝えるが記入した紙も渡している。内容についてはNSよりDrに直接伝える時もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りの紙に受診した内容やそれ以外変わりが合った事を記入し、訪看日にもNsと話をするようにしている。相談し、助言を受けたり、Drとのやりとりを依頼することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換・相談は施設長・ケアマネが行っている。面会時にNsと会えば様子は聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期など、ご家族様とケアマネ、施設長、主任、NSが集まり「どういふ最期を迎えたいのか？」等聞く。施設側、NS側それぞれできる事を家族様に伝え方針を一つにまとめてその旨、スタッフに伝える。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	二年に一度消防署が主催している「救命講習」を職員全員受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・半年に一度防災訓練を行っている。(施設の) ・地域の防災訓練にも行ける方は参加して頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士、注意をしながら対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	応えやすい質問の仕方では利用者様が自分の気持ちを言えるように工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の体調次第で体操に参加されたり、されなかったりとその方の気持ちを優先し無理はさせない様に声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えや交換する時はご本人様を選んで頂けるように声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は、一緒に行っている。片付けも出来る方をお願いをし一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・体動やその方の年齢を考え量を変えている。 ・水分チェック表を活用して飲水量を確認をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・月に一度歯科衛生士より指導を受け、日々のケアに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを見つけトイレ誘導を行っている。自分で行かれる方にも、時間が空いていれば声をかけさせて頂きトイレでの排泄に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が摂れているのか確認。ヨーグルトやオリブオイルなど提供して排便に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間はほぼ、決まっているが、体調確認をしっかり行い、本人の意向にも耳を傾け訴えに近い状態にしてあげる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や精神状態に応じて入床時間に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どのような薬を飲んでいるのかを確認。全ては理解はしていないが、服薬の変更があった時は必ず全職員に伝わるように朝の送りノート、介護記録を確認する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌やかかるた、運動などの時間を設けている。生き生きされているように見える。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出たい方がいる時は、フロアの安全に努め確認し、可能な限り一緒に外に出る。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で金銭は持てないが立替えという形で買い物はできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家人より電話があった際には本人と話しをしてもらう事はあるが、利用者様からの電話・手紙のやり取りはない。月に1回担当者が家人に写真を添えて手紙で近況報告をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・エアコンや加湿器を使用・調整し風が苦手な方には当たらないようにしている。・壁画で季節を感じられるようにしている。・西日が当たるのでカーテンを調整している。・必要無い物は棚に片付けるよう働きかけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う合わないや、その日その時の利用者様の状況により対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などあれば持ち込んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには貼り紙、居室にはネームプレートが付いており、それを見て入る方もいる。異食のヒヤリが上がったハンドソープは見えない様棚にその都度片付けている。		